

今月の
若きプロフェッショナル

リフィニッシャー

社長 坂田知裕さん リフィニッシャー 五十川あやさん(31歳)



坂田社長(左)とリフィニッシャーの五十川さん

「私が落としちゃろう！」の気概で 年間一万点以上のしみを抜く若き匠

業界初の宅配クリーニングで成長してきたトットウモロウ。数年前からは感動し抜き「匠抜き」事業をスタート。全国から大切な衣服をもう一度着たいと注文が殺到しています。そのしみを抜くを黙々とこなしているのが、同社のリフィニッシャー・五十川さんです。若き匠とトップにお話を聞きました。

株式会社 トットウモロウ
本社所在地 福岡市中央区平尾1-9-2 ティファインズ平尾 1F TEL 092-525-1461 FAX 092-525-1884
設立:1999年2月/従業員数:28名(P/A含む)/平均年齢:28歳/事業内容:デリバリークリーニング事業・クリーニングサービス事業・フランチャイズ事業・ネットサービス事業

○起業のきっかけは何ですか？

坂田 学生の頃から「自分で何かしたい」という思いがありました。サラリーマン時代は営業を担当していたのですが、衣類をクリーニング店に持って行ったり取りに行ったりする手間が非常に面倒だなあと感じていました。不満、不便の「不」がビジネスになると言いますが、僕の「不」は何かと考えたとき、それに思い至ったんです。宅配ピザのように、取りに來たり持って來たりしてくれるクリーニング店があればとても便利だろうなど。当時、そういった形態の起業は存在していませんでしたから。

○現在のビジネスについて聞かせてください。

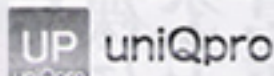
坂田 七年前に自社工場を建設し自社処理体制にしました。現在、中央区平尾を中心に、西は姪浜、東は香椎、南は大橋辺りまで約十キロ圏内のエリアをカバーしてい

ます。そのエリアを六ブロックに分けて、一ブロックにつき一台車を充ててデリバリーを行っています。

最近、やよい坂にクリーニングとコインランドリーを併設した店舗をオープンしました。取次ぎはコインランドリーのオーナー様がフランチャイズで行い、トレーニングとブランドニングは弊社が行っています。かつてコインランドリーは無人が大半でしたが、最近は有人化が進んできています。それならばクリーニングとコインランドリーの間仕切りを取り払って看板をひとつにすれば、お客様はどちらにも立ち寄りやすくなるのではないかと考えました。ここにはパッケージビジネスの可能性が大いにあると思います。コインランドリーに限らず、今後もこういった直営店を増やしていく予定です。

○いつも「匠抜き」と呼ばれるしみを抜く職種を「リフィニッシャー」と呼んでいますね。

坂田 「リフィニッシャー」は日本語で言うと「修復者」という意味になります。ファッションメンテナンズというカテゴリの中では「クリーニング」「プレス」「シミ



どうせなるならプロになろう！本物、一生物に出会うサイト「ユニークプロフェッショナルズ」、始めて「ユニプロ」。「経営者、働いている人」を取材してその仕事のありのままをお伝えしてそのやりがい、プライド、実態を感じてもらおう」ことを目指し、「新生活産業」と呼ばれる職種（一部の業種を除く）の技能研修・職業紹介や合同会社説明会などの情報、また様々なプロフェッショナルの紹介や、仕事に向き合う若者を紹介するサイト及びスペースです。http://www.uniapro.jp/ TEL 092-433-8311 FAX 092-433-8312

抜き「染色」「リフォーム」「リメイク」が並列で、これらすべてが「リフィニッシュ」です。

担当の五十川はそのうちの「シミ抜き」の技術者です。大手のクリーニング店に出しても「これ以上のシミ抜きは生地を傷めます」というタグ付きで返される品も、弊社の「匠抜き」という技術で処理をし、ご好評いただいています。

○五十川さん、この仕事に入った動機を教えてください。

五十川 学校を卒業した後は、アパレルで販売を担当していました。服が好きという気持ちで就いた仕事でしたが、働くうちに十年後、二十年後の自分の姿が想像できなくなつて退職し、その後は派遣やアルバイトをしていました。

元々、服を作ったりリフォームしたりすることに興味があったので、技術職を探していたときに「トータル洋服メンテナンス」「初心者OK」の求人を見つけ、応募したのが始まりです。ふたを開けてみたらクリーニング屋さんで、びっくりしましたけど（笑）。

○ゼロからのスタートで、大変だったのでは？

五十川 最初の半年はきつかったです。でも、技術を身につけるという目標がありましたから。一年間で色々な服を見ながら、実際にシミ抜きの作業をして勉強しました。

○かなりの職人技だと思うのですが、教えてもらったとおりにすれば習得できるものなのですか？

五十川 八割は教わったとおりに作業すればOKですが、残りの二割は感覚と経験に頼る職人技ですね。実際、私ではどうしても落ちないのに、先生だと落ちるシミもありました。

○失敗してしまうと取り返しがつかないですよ。

五十川 もちろん、失敗のプレッシャーはあります。なんとかシミを落とそうとして、最後がんばりすぎて穴を開けてしまったこともあります。お客様の家に謝りに伺ったこともあります。怒られる場合もありますが、「あなたに頼んでだめなら仕方がない。いいですよ」と言っていたこともあります。現在、月に約千点、年間一万点以上処理しており、そのうち失敗は二点です。

○今の仕事に向いているか？

五十川 先生について習いだして半年くらいになると「リフィニッシュ」に向いている」と言われたんです。

理由は「負けず嫌いだから」。毎日「何故ですか？」「何故ですか？」と質問を浴びせかけたからです（笑）。

今では、自分でも向いていると思います。

やるからには「ある程度」の出米では満足できないんです。他のクリーニング店でダメだったものでも、「私が落とさちゃろう！」という気持ちで取り組んでいます。

○どういった点にやりがいを感じられますか？

五十川 やはり、お客様の声ですね。直接お話できる機会はほとんどありませんが、デリバリースタッフを通じて聞かせていただくことがあります。あとは、ネットで注文されたお客様に衣類をお返しする際にハガキを同封させていたでいたのですが、手書きで書いていただいたハガキが返ってくると、とても参考になりますし、励みになります。普段、黙々と作業しているので、フィードバックがとてうれしいですね。

○昨今のものを大切に「もったいない」精神とマッチしていますね。

坂田 確かに時流に合っている手ごたえはあります。お客様から依頼される品物は、必ずしも高価なものとは限りません。比較的安価な既製品であっても、ある方にとっては思い出や思い出のある品物ですから。今後このマーケットは広がっていくと思いますが、後継者と技術の不足が懸念されます。さらに社会的認知度をもっと上げていきたいですね。